

地理情報標準認定資格スタート

本年度200人認定を想定

調査協会
測量技術

日本測量調査技術協会の岡部篤行会長らは29日、東京都内で記者会見し、本年度に開始する地理情報標準認定資格制度の概要を発表した。同資格は、官民で利用が進む地理情報標準の専門技術者として必要な知識、技能を持つことを、初級、

中級、上級の三つのレベル別に認定する。本年度は初級、中級合計で約200人の認定を想定している。地理情報標準は、各種データの相互利用や新しいサービスの普及が進んでおり、資格保有者は「顧客に対する信頼性の担保などに役立つ」

(岡部会長とみている。同協会は、地理情報標準に基づく地理空間情報を活用する業務を適切に遂行する技術者の養成と、その技術水準を認めることを目的に資格制度を創設した。初級、中級、上級の各技術者は「地理情報標準認定技術者」

場、中級を10月初旬に東京で行う。上級は来年度から。資格は5年ごとの更新が必要となる。地理情報の用途が広がり、同協会は認定資格が国際的に活用されていくとみている。07年の地理空間情報活用推進基本法の成立以降、地理空間情報を活用するビジネスは多様化。同協会は「資格者はさまざまな場面で活躍が期待される」(岡部会長)として、資格のPR活動に力を入れる方針だ。

(愛称)SIGI-Ce
It(エス・ジー・アイ・サート)と呼ぶ。
講習、試験の結果と実務経験を基に認定する。初級に受験資格はなく、民間の技術者、学生、公務員など誰でも受験が可能。中級、上級はそれぞれ下位の資格保有が受験の条件となる。同協会は受験申し込みのサイトをホームページ上に6月1日に本格オープンする。本年度の試験は初級を7月に全国5会

測技協

地理情報標準に新資格

初級、中級から認定試験

日本測量調査技術協会（岡部篤行会長）は29日、地理情報標準認定資格制度を創設、初年度はだれでも受験できる

初級技術者と、実務経験と測量士などの資格が必要な中級技術者で実施すると発表し、中級は10月に東京だけで実施

する。上級は2014年度からスタート。

受験要件は上級技術者の場合、実務経験10年以上と中級技術者登録者の両方を満たした上、測量士、IPA情報処理技術者（Lv4以上）、技術士のいずれかの資格が必要だ。中級技術者は、実務7年以上と初級技術者の登録者で、測量士（補）、IPA（Lv2以上）を技術士1次試験合格者のいずれかに該当する者。各等級とも5年ごとに更新講習を受けなければならない。

初級は4時間の講習を受けたあと試験、中級は3日間で計18時間の講習を受けて受験する。初級は6月1日、中級は9月初旬から申し込みを受け付ける。料金は初級が受講料1万5750円、受験料7350円、中級がそれぞれ5万2500円、1万0500円。上級が受験料3万1500円となっている。

地理情報標準は、GIS（地理情報システム）の基盤となる空間データを、異なるシステム間で互換性を確保するため、データの設計、品質、記述方法、仕様の書き方などのルールを定めている。国際標準に準拠しているため、地球規模の地理空間情報を管理、活用する際に不可欠なことから、能力を判断する資格制度を創設した。